



里海プロガイド養成講座（応用） 開催しました！

“デザインする”～アクティビティを組み合わせたプログラムのデザイン方法について学ぶ～

“実践する” ～地域の強みや魅力を活かしたツアーづくりを学ぶ～



- 日 時： 1日目 平成31年 2月9日（土） 10:00～16:00
2日目 平成31年2月10日（日） 10:00～16:00
- 会 場：交流の里おうごし（坂出市王越町）
- 講 師：松野 陽平 氏（絆創工房代表） 小前 昭二 氏（Free Cloud 代表）
森田 桂治 氏（NPO 法人アーキペラゴ理事）

2月9日土曜日と10日日曜日、交流の里おうごしで「里海プロガイド養成講座（応用）」の第1回を開催し、4名の方が受講しました。

講師は実際にプロのガイドとして活動をしており、講座は、「プロが教える、プロから学ぶ。フィールド実習と対話型講義を通じて行う講座形式」が大きな特徴となっています。

今回は、全体4日間からなる応用編の前半になり、1日目はプロガイドが実施するツアー（受講アクティビティ：王越のみかんを使ったみかんジャムづくり、フィールドビンゴ）を体験して、フィールドの



プロガイドによるツアー説明



フィールドビンゴの体験

活用方法やガイドがツアーする時のポイントについて実習の中から学びました。

また、アクティビティを組み合わせるツアープログラムをデザインする方法についても学びました。

2日目は実践として、3月に、実際に受講者がガイドとなって“王越で里海を感じるモニターツアー”の内容を決めるためにフィールド調査など準備を進めました。

ツアーのコンセプトを考えたり、実施に適したフィールドを探したりして海岸などの数ヶ所を巡りながらどのような活動が出来るか真剣に考えていました。

振り返りの際、参加者からは、「ガイド目線でツアーを体験すると気づく事が多くあった」「実際に自分たちでツアーを作ろうとすると難しい部分が多くあるが、フィールドを調べたり、より良い内容にするための工夫を考えたりするのが楽しい」などの意見がありました。



みかんジャムづくりの様子



フィールドの魅力探しの様子（大崎の鼻）



フィールドの魅力探しの様子（とんぼランド）



ツアー案作成の様子

- 日 時： 3日目 平成31年3月9日(土) 10:00~16:00
4日目 平成31年3月10日(日) 10:00~16:00
- 会 場：交流の里おうごし(坂出市王越町)
- 講 師：松野 陽平 氏(絆創工房代表) 小前 昭二 氏(Free Cloud 代表)
森田 桂治 氏(NPO 法人アーキペラゴ理事)



3月9日土曜日と10日日曜日、交流の里おうごしで「里海プロガイド養成講座(応用)」の第2回目を開催し、前回同様の4名の方が受講しました。

全体4日間からなる応用編の後半になり、王越のフィールドで、作成したツアーを受講者相互で実践しながら、地域の強みや魅力を活かしたツアーづくりを学ぶ内容となりました。

3日目は、前回の講座から今までに組立てられたツアー内容を受講者同士で確認しながらツアーで利用するとんぼランドへのルートや危険個所の確認を行ったり、参加者がわくわく楽しめるための工夫を考えたり、使う道具の準備をしたりしました。



ツアーで使うとんぼを試作



講師からのアドバイス

最終日となる4日目は、モニターツアー参加者として集まっていた7人の方を対象として受講生が2人1組となって2回（各90分）のツアーを行いました。

王越には多くのとんぼが生息しており、この自然を楽しみながら知ってもらいたいとの思いから、モールを使ったとんぼ作りや作ったとんぼをとんぼランドに置いて楽しむツアー内容でした。特に、とんぼランドではお気に入りの風景やモールのトンボをスマートホンで撮影して、その写真をInstagramにアップして王越やとんぼランドの良さを発信しようと参加者へ呼びかけていました。

参加者からは「王越再発見という感じです。」や「活動のポイントポイントでのガイドさんの声かけなどの進行が良かった。」などの感想があり、内容に満足している様子でした。

受講者の振り返りでは、「コミュニケーションの大切さを学べた。」「最初は“楽”しかかったけど、ツアープログラム開発では、“苦”しみを味わった。最後は“満足”です。」などの感想が出され、ツアーづくりの生みの苦しみがあつた中で多くの気づきや学びがあつたようです。

最後に、受講生全員に修了証が渡され、新たに里海プロガイド養成講座修了生が4名誕生しました。



フィールドの魅力探し



モニターツアーの様子



受講者の振り返り



モニターツアーの様子（とんぼランド）



新たに誕生した里海プロガイド